



# パート・派遣労働者は安くつくか？

～経営戦略論からみた非正規雇用の社会的費用、あるいは「社会の安心」～

---

平成20年10月30日

関東学園大学 経済学部教授 黒田哲彦



# 講義の目的

---

かつて経済大国であった日本だが、今や非正規雇用が全労働者の約1/3を占めるという。母性的で家族的な諸制度であれほど社員のモラルとロイヤルティの維持向上に腐心してきた日本企業であるが、グローバル市場での激しいコスト競争と競争圧力を前にして、苦戦を強いられている。

本講座では、横行する非正規雇用の社会的費用を検証し、今後わが国が進むべき方向性を考える。



# 講義の内容

---

1. はじめに: 日本経済と日本企業の現状
2. 2つの崩壊と日本的経営の変質
3. グローバル・スタンダードと社会ダーウィニズム
4. 非正規雇用(パート、契約社員、派遣社員等)の社会的費用

わが国が進むべきは市場原理主義国家? 福祉依存国家? それとも第三の道?

# 1. はじめに: 日本経済と日本企業の現状

## (1) バブル経済崩壊までの日本(企業)礼賛論・・・>「もてはやされた日本的経営」

両国(日・独)とも第二次大戦の敗者だが、政治・経済の両面で冷戦の勝者として立ち現れるかもしれない。

ニューズウィーク誌



バブル経済崩壊までは、次のような日本(的経営)礼賛論は、枚挙にいとまがなかった。

➢ 「セオリーZ」<オオウチ(W.G.Ouchi)著>

➢ 「ジャパン・アズ・ナンバーワン」<ボーゲル(E.F.Vogel)著>



## (2) 日本(企業の)衰退・・・>「取沙汰される日本(企業)の衰退」

—日本の影響力、来世紀(21世紀)には低下の兆し—

日本にとって、20世紀は目を見張るような世紀であった。20世紀になって日本は、最初は憂慮すべき軍事大国として、次には恐るべき経済大国として登場したが、その影響力には翳りが見え始めている。

ニューヨーク・タイムズ紙・元東京支局長ニコラス・D.クリストフ氏の記事



## 2. 2つの崩壊と日本的経営の変質

### (1) 労働人口の急激な減少


日本は世界でも少子化・高齢化が最も激しく進展している社会の一つ



2100年には日本の人口は6700万人以下にまで減少(政府推計値)

### (2) 公的資金を消滅寸前の産業、企業、後進地域の延命のために浪費

日本は、シュンペーターのいう「創造的破壊」の能力を徐々に喪失



非効率な企業、消滅寸前の経済セクター、過疎の島や村に福祉依存体質を醸成

21世紀、日本はアジアの主導国どころか「極東の過疎の島」へ

### 3. グローバル・スタンダードと 社会ダーウィニズム(1/2)

1990年以降、日本を取り巻く環境は、ますます非連続的で予測困難となってきた。  
この状況下、多くの企業が、競争に勝つための方法を誤解しているかに思われる。

#### わが国企業のグローバル競争の構図

非正規雇用による労働コスト  
引き下げ

高品質・低価格製品の大量  
生産



グローバル競争での苦戦

≠

日本企業が繁栄を  
謳歌した  
高度成長期

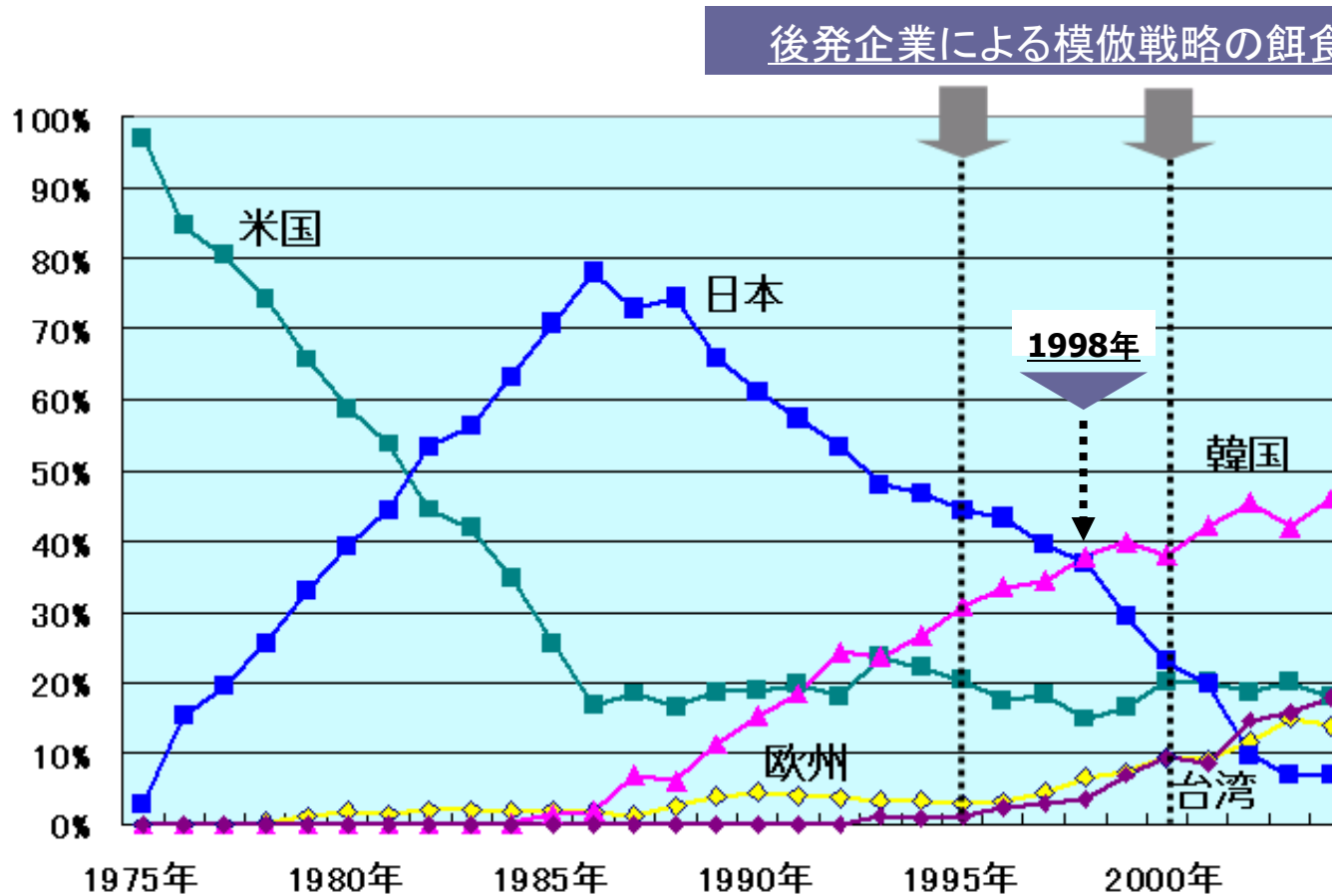
現実には模倣による猛追が……

例えば\*DRAMの市場占有率No1は、日本から韓国、韓国から中国へ

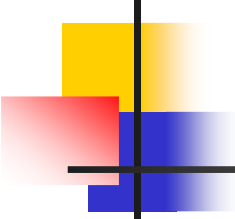
\*コンピュータに必要なメモリーのこと(DRAM:ダイナミック・ランダム・アクセス・メモリー)

# ご参考: DRAM市場の推移

1982年から守り続けたDRAMシェアNo1の座を1998年に韓国に譲り渡した。



出所 : ガートナーデータクエスト



### 3. グローバル・スタンダードと 社会ダーウィニズム(2/2)

戦略経営論の父と称されるH.I.アンゾフはかつて、日本企業を取りまくこのような激しい環境変化について次のように述べた。

自社の将来の長期戦略の基礎を、過去の部分改良的な現状延長に置き続ける企業に対して、罰金を課すことになるだろう。日本人マネジャーが新奇で非連続的な戦略の形成に方向転換しない限り、これまでの長期志向だけでは自社の継続的な成功を保証するには、もはや不十分だろう。

中村元一・黒田哲彦訳『最新・戦略経営』産能大学出版部、1990年、「日本読者へのメッセージ」



## 4. 非正規雇用の社会的費用(1/2)

### (1) 企業における非正規雇用の問題点・・・>「企業が強いられる代償」

- 組織への帰属心・忠誠心の低下、モラールダウン(士気の低下) ⇒ 顧客の信頼の喪失
- 企業内労働者間の信頼感の喪失
- 組織内の熟練・ノウハウの伝承の困難性
- イノベーション(革新)の阻害
- 長期的な視点からからみた国際競争力の喪失

### (2) 非正規雇用が社会に与える影響・・・>「社会全体に要求されるコスト(社会的費用)」

- 社会不安の増大と社会の活気の喪失／人心の萎縮と「社会の安心」の喪失
- 犯罪の増加(例:秋葉原無差別殺人事件)
- 無帰属社会の到来とコミュニティーの崩壊
- ビルト・イン・スタビライザーズ(自動安定化装置)の無機能化と経済の不安定化
- 労働者が得る賃金の減少による総有効需要の減退(長期的な景気の停滞・悪化)
- 所得・教育格差の拡大再生産とその固定化
- 低賃金に起因した婚姻率・出生率の低下による人口減少
- 国家の衰退



## 4. 非正規雇用の社会的費用(2/2)

今後日本が進むべき方向性は、いずれの道なのだろうか。

市場原理主義国家？

…> 弱肉強食の非情な市場原理主義国家なのか？

福祉依存国家？

…> 福祉への依存体質を育む福祉依存国家なのか？

それとも第三の道？

…> 上記両者の折衷主義に堕さない第三の道か？